





審査結果報告書

2020年 / 月 27日

主査 氏名	高橋博之	
副査 氏名	吉田玲子	
副査 氏名	塩見和	
副査 氏名	松本 綾美	

1. 申請者氏名 : DM16014 朽津 有紀

2. 論文テーマ :
TRAP1 is a predictive biomarker of platinum-based adjuvant chemotherapy benefits in patients with resected lung adenocarcinoma
(TRAP1 は完全切除された肺腺癌におけるプラチナ製剤を基本とした術後補助化学療法の効果予測マーカーである)

3. 論文審査結果 :

申請者は肺腺癌培養細胞株から抽出した蛋白から同定された自己抗体が認識する抗原タンパク質の中でも、細胞増殖や薬剤耐性との関連が報告されている TNF receptor associated protein 1 (TRAP1) について、肺腺癌で免疫染色法や siRNA 法で検索した。その結果、TRAP1 発現は pTNM stage の進行およびリンパ節転移有りて有意に高発現を示した。さらに予後との関係では、TRAP1 高発現群は低発現群に比べて、有意に無病生存期間が短期であった。siRNA による発現抑制実験では、TRAP1 発現抑制により肺腺癌細胞の増殖能抑制とシスプラチンに対する抵抗性低下を示した。これらのことから、TRAP1 発現は肺腺癌細胞における細胞増殖および薬剤耐性に関与しており、肺腺癌患者の予後因子や術後補助化学療法の有用な効果予測マーカーとなる可能性が示唆された。この研究成果は、肺腺癌患者の術後補助化学療法に対する新規治療効果予測マーカーの獲得につながると考えられた。さらに、TRAP1 の機能解析実験など、今後の研究の発展にも期待が持たれる。以上のことから、本研究は医学博士の学位にふさわしいと評価した。